(C)河北新報社

拝見 宮城の底力 6完

第2部 対談「ものづくり産業を考える」

宮城県のものづくり産業は、リーマンショックに続いて東日本大震災によって大きな打撃を受けた。しかし、このような厳しい状況にあっても、多くの企業立地が実現し、ものづくり産業の集積に向けた将来への「礎」が着実に形成されてきている。シリーズ最終回の「拝見 宮城の底力」では、ものづくり産業をリードする2人が、村井嘉浩宮城県知事と対談した。第2次産業の裾野をさらに拡大するための方策、異業種融合や技術革新、地域課題との向き合い方などについて意見を交わした。

出席者

宮城県知事
村井　嘉浩氏
トヨタ自動車東日本取締役社長
白根　武史氏
みやぎ工業会理事長（東京エレクトロン宮城取締役会長）
竹渕　裕樹氏

ものづくり産業の一層の振興に向け意見交換する（左から）白根武史社長、村井嘉浩知事、竹渕裕樹理事長＝宮城県庁

人と技術磨き裾野拡大

人材育成を後押し 村井氏

裾野を拡大する

村井　宮城県の経済を立て直す私の考え方は、震災の前と後で変わっていない。宮城は支店経済といわれ3次産業のウエートが高い。支店が増え、人口が増えれば人を相手にしたビジネスで食べていけた。しかし、情報化の進展や交通網の発達により、宮城に支店を置く必要性が薄れ、また少子高齢化で人口が減ると、3次産業中心の県経済は衰退してしまう。

そこで県が弱い2次産業、特に製造業を伸ばしてバランスの取れた産業構造にするのが私の「富県戦略」だ。製造業が盛んになると雇用の場が増え、県のGDPも押し上げられる。

白根　2012年度は前の年に出した小型HV「アクア」がフル生産に入った。そしてカローラの新型車も出し、生産切り替えが矢継ぎ早にあり、トヨタ自動車東日本のトータルで年間66万台を生産した。13年度はそれを若干下回るが、ほぼ順調な生産となっている。

トヨタは東北を国内生産の第3拠点とし、特に世界で激戦となっているコンパクトカーの拠点と位置付けた。われわれは開発から生産まで地域で一貫して行い、地域貢献したい。東北でいい車を生みだし、いい車の造り方を編みだし、東北をグローバルな発信基地にする。東北のものづくりの力を借りて、将来的にはそうした大きな目標を目指している。

竹渕　みやぎ工業会には約360社の会員企業が加入しており、うち200社程度がものづくりを担っている。理事長職を引き受け一昨年の夏から会員を訪問しているが、当初は震災や円高の影響などで明るい状況はあまり見られなかった。それが1年たち、生産や販売が元に戻ってきたというような明るい話が出てきた。電子機器関係など円安効果もあって活気づいた印象を受けた。

工業会が昨年末実施した景況感のアンケートでは、5割ほどの会員が震災前と同じ水準に戻ったと回答し、2割強が震災前より伸びているとしている。新たな分野の売り上げが増えている会員も十数%あり、復旧・復興が進んで次のステージに移ってきている感じだ。ただ沿岸部の企業で人手の不足やミスマッチを嘆く声も依然ある。そうした課題をクリアしなければならないが、景況は総じて良くなっている。

むらい・よしひろ　大阪府出身。防衛大学校（理工学専攻）卒。陸上自衛隊東北方面航空隊を経て松下政経塾入り。95年から宮城県議3期。05年知事選で初当選し、連続3期目。53歳。

村井　東北6県による技術展示商談会が1月下旬に愛知県豊田市であり、トヨタ関連企業から約2000名ご来場いただいた。以前の商談会では、うちの技術を何かに使ってほしいという姿勢だったが、今はうちの技術を使えば、この部品にこういったメリットがあるというようなプレゼンができるようになった。地元企業の意識が変わってきた手応えを感じる。

竹渕　ものづくりの人材育成について工業会は、7年前から「クラフトマン21」という工業高の技能向上事業を手伝っている。生徒の資格取得が増え、先生たちのスキルも上がり、就職率も百%近くになる効果を上げている。ものづくりの企業への就職は7年前46%強だったが、昨年度は約56%と10ポイントも上向いた。県内のものづくり産業が元気になっていることの表れであり、若い世代の志向性も高まっている。

白根　会社設立前の12年4月、アクアを分解して新潟を含む東北7県の部品メーカーに見てもらう機会を設けた。でも、すぐにトヨタと結び付くのは簡単ではない。昔から付き合いのあるメーカーが拠点となり、地場企業と一緒に研さんしながら地元参入を広げているところだ。

企業内訓練校のトヨタ東日本学園では東北の工業高新卒者15人、地場企業の社会人枠5人が一緒に勉強する。学園長は東北の人材の資質を高く評価している。震災で大変な思いをした東北を自分たちの世代で何とかしようという意気込みがある。もともと誠実で、根気もある。そんな東北の人材を活かせば、世界への発信基地になると信じている。

世界に車造り発信 白根氏

しらね・たけし　大阪府出身。早稲田大卒。77年トヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）入社。第1調達部部長、常務、専務、専務役員を経て、12年7月発足のトヨタ自動車東日本社長。61歳。

村井　地元の企業に県ができることは三つある。技術力向上の支援、企業間のマッチング支援、そして人材育成だ。今、経済を伸ばすのは、ものづくり、金融、ICT（情報通信技術）。その中から県は人材育成の面で後押しし、まずは宮城のものづくりを成長させる。

モデル都市の創造 竹渕氏

イノベーション

白根　車造りでは顧客の声をしっかり聞いて、つかんで、それを生産技術で製品にすることが大切だ。ものづくりの強さは、現場技能の高さが呼び込む革新技術にある。日本では、優れた理論を持つ人の下で学び、それを科学的に分析し、一般化してきた。その繰り返しが産業の発展につながってきた。さらに、さまざまな知能を持った人が社会に入り、大学との連携も強くなり、技術が進歩してきた。

たけぶち・ひろき　群馬県出身。東京都立大卒。78年東京エレクトロン入社。常務執行役員経営戦略室長を経て、10年東京エレクトロン宮城会長。12年みやぎ工業会理事長。59歳。

竹渕　エレクトロニクス産業は一時期は世界をリードしてきたが、現在は取り残されている。20年前、日本の半導体製造会社は世界上位10社のうち6社を占めた。今は1社か2社しかなく、順位も真ん中程度。日本のものづくりの良さと、ビジネス展開がマッチしなかった。半導体という部品を使う製品の展開が遅れた結果だろう。

遅れた理由は何か。ICT化の流れに、製品を乗せる必要があった。日本にはタブレット端末、スマートフォン（多機能携帯電話）の原型を具体化できる技術力はあったが、社内の壁や規制の壁を乗り越えられなかった。

日本は優れた技術を持ち、薄型テレビも世界に先行して製品化した。一方で「品質は求めないで、コストを安くする」という流れには乗れなかった。グローバルな市場をピラミッド型に見てたが、日本は上の部分しか見なかったとも言える。

現在の第1次デジタル戦争下で、日本は劣勢にある。次はスマート化の波が押し寄せて来る。そこにはエネルギーや輸送などがネットに関係してくる。

あらゆるものがネットにつながっていく。その中で、日本がどんなものを提供できるか。自然エネルギーも取り入れ、車も自動で走るようなスマートシティーをつくり、世界中に発信するモデルが必要になるだろう。

村井　宮城県には素晴らしい企業や東北大をはじめとする大学や高専がある。県は、それらを有機的につなげる結節点としての役割を果たし、革新的な技術開発や商品開発が進むよう積極的に支援を続けていきたい。

地域と向き合う

竹渕　先日、「みやぎ優れMONO」認定式があった。認定件数は累計で29件。リハビリができる車いす、重さが約5㌔しかない、女性でも片手で運べる携帯用車いすなど、高齢化社会をサポートするような製品も目立っている。

開発に関しては企業側から「大学の門をたたきにくい」という声があるほか、中に入っても難しい技術に直面するのが実情だ。大学の研究を具体的な技術にする「技術翻訳」という仕事も必要で、これらは宮城県産業技術総合センターに負うところが大きい。

白根　国の復興推進委員会がまとめた中間報告書に地域課題型の産業モデルが随所にちりばめられており、東北には経済基盤を通す中・長期的な取り組みが必要。そのためには、東北がものづくりでグローバルな競争力を持てるようにする必要がある。当社では、良いものづくりをコラボする1次メーカーを呼び込んでいる。

生産拠点の選択も企業経営を左右する。中国製の半導体メモリーは一時期、「安い、安い」と言われた。しかし、現在は日本製の4分の1程度に上昇。あとは時間の問題で、各企業は「生産拠点を海外にするか、それとも日本か」を考えている。こうした面で、東北を拠点に選んでもらう最高の時期ではないか。国を挙げて東北でものづくりを進める姿勢とアドバンテージがほしい。

村井　県は公正中立を大前提とし、さまざまなものづくり企業を呼び込み、企業間のマッチングを支援している。先日、トヨタ本社で燃料電池車に試乗させていただいた。ICT分野では、電源を切っても記憶状態が保存される磁気抵抗メモリ（MRAM）も開発されている。こうした次の時代に向けて何かをやろうという取り組みを支援することが重要だ。

県単独でできなければ国に支援を働き掛けるなど、さまざまなことを組み合わせ、東北、宮城県をさらに豊かにしたい。

シリーズ「拝見 宮城の底力」は、今回で終了します。昨年10月から現状ルポ編（3回）と対談編（同）を毎月掲載し、宮城の「富県戦略」を先導する各産業の成長戦略を展望してきました。企画は河北新報社企画事業部、協力は宮城県。